

## 2026年度「卒業研究」(メディア社会学科)課題

各学期、選択した2つの課題について、最終的にレポート(各 4000 字以上)として提出すること。Chat GPT などの対話型 AI を用いてレポートが作成されていたと確認された場合は不可となります。あくまで、自分で文献・資料を収集し、自分で考えて論述してください。

生成AI(例: ChatGPT、Claude、Gemini、Grok3以降、Deep Seekなど)の使用について

卒業研究の課題レポートに限りませんが、レポート・論文の作成において、一部でも、利用を明示せずに、生成AIの出力をそのままコピー&ペーストして提出することは禁止されます。生成AI出力をそのままレポート・論文に含めることは、「ウェブ検索して、Wikipediaの内容をコピペした」「図書館で見つけた論文を丸写しした」と同じです。大学は、皆さんが学び、自らの知的能力を高めるための場であり、単なるコピー&ペーストでは、学びは起きません。他方、生成AIは一切使ってはいけないということではありません。図書館で調べたり、ウェブ検索を活用したりするのと同様、学びのきっかけとして意味ある使い方をすることが重要です。

レポート、論文は自身の体験や思考を自らの言葉で表現することが大原則です。生成AIを、論文執筆において利用する際には、危険性(生成AIの出力を事実と誤認し、根拠のない情報を使用すること、個人情報や機密情報の流失、著作権侵害や剽窃など)に留意し、倫理的責任と学術的誠実性を持って利用してください。生成系AIの利用は補完的な手段とし、透明性を重視して、自身の学術的成果と結び付けることが重要です。レポート、論文執筆に際して、生成系AIを利用した場合には、何をどのように利用し、論文のどの部分にいか反映しているかの情報を明確に注記し、AIの生成過程や結果の妥当性について説明責任を果たすようにしてください。

<春学期>

【メ社1】井川充雄

課題タイトル: 【ナショナリズムとメディア】

課題本文:

以前よりナショナリズムの形成や再生産の過程においては、メディアが大きな役割を果たしてきたことが指摘されてきたが、現代におけるナショナリズムとメディアの関係性について、最近(ここでは、さしあたり5年以内のものとする)の事例を挙げ、具体的に論じなさい。考察にあたっては、B. アンダーソンの『想像の共同体』を読み込み、それらを十分に踏まえ、さらにもう1点以上の学術書を読んだ上で、新聞記事、テレビ番組、インターネット上の情報などを豊富に引用・参照しながら具

体的に論じなさい。なお、参考文献に挙げた津田の論文では、近年のナショナリズムとメディアに関する論点がよく整理されているので、それを最初に読むことを推奨する。

## 参考文献

・ Anderson, B (1991=1997) *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism* (Revised Edition), Verso. (白石さや他訳『増補 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』NTT出版)

・ 津田正太郎 (2007) 「ナショナリズムの生成および再生産過程におけるマス・メディアの役割：ナショナリズム概念の再検討による新たな視座の探求」『マス・コミュニケーション研究』No.70

## 【メ社2】黄盛彬

### 課題タイトル: 越境するポピュラーカルチャー：変容するグローバル・フローの分析

#### 課題本文:

近年のポピュラーカルチャーにおけるグローバル化やトランスナショナル化の現状、その背景および今後の展望について、学術的な手続きに基づいた分析レポートを作成すること。本課題では、単なる現象の記述に留まらず、具体的な事例や地域を対象に据え、先行研究の知見を足場とした批判的な考察が求められる。

執筆にあたっては、まず自身の関心に沿って、関連する先行研究の論文や文献を3点以上精読し、それらの理論的視点や概念、既存の知見を体系的にレビューすること。その上で、既存の研究では十分に明らかにされていない点や、現代的な変化が生じている点に着目し、本レポートで解明すべき「問い(リサーチ・クエスチョン)」を明確に設定しなければならない。設定にあたっては、メディア社会学科の専門科目「グローバル・コミュニケーション論」の講義内容を振り返り、文化の均質化や異質化、ハイブリディティ(混濁性)、あるいはソフト・パワーや受容の政治学といった論点を踏まえ、自身の分析枠組みを選択することを勧める。

分析手法については、質的メディア分析、またはインタビュー調査のいずれかを選択すること。質的メディア分析を用いる場合は、国内外の新聞、放送、インターネットメディア等の記事データを、大学図書館で利用可能なデータベースを用いて体系的に収集すること。収集したデータに対しては、質的言説分析や計量的テキスト分析などの手法を用い、メディアが対象をどのように表象しているかを客観的に論じる必要がある。一方、インタビュー調査を用いる場合は、対象とするポピュラーカルチャーのファンや関係者など5名以上に対し、1名あたり1時間以上の聞き取り調査を実施すること。調

査にあたっては、対象者の語りを丁寧に記録し、概念的なカテゴリーに整理した上で分析を行うことが求められる。

なお、分析対象の選定やデータ収集、インタビュー対象者の選定については、調査の妥当性と倫理的配慮を期すため、事前に出題教員に相談し、承認を得ること。レポートの構成は、序論（問題の所在と問い）、先行研究レビュー（理論的枠組み）、分析方法、分析と考察、結論の順で論理的に展開し、注釈や引用文献リストを適切に付した上で、卒業研究に繋がる本格的な論考としてまとめ上げること。

### 【メ社3】 林怡蓀

**課題タイトル: 【市民社会とジャーナリズムについて】**

**課題本文:**

近代の始まりとともに西欧社会を中心に市民社会が登場しはじめる。市民社会の起爆剤とされるジャーナリズム活動が言論の自由を訴えながら、批判的言論を繰り返すことによって社会の大きな変革を引き起こしてきたと言える。①市民社会と封建社会の、社会の仕組みにおける相違。また、「市民」という新しい身分には、どのような意味合いが含まれているのか。②ジャーナリズムの登場は、こうした「市民」たちの意識や行動の変化とどのような関連があるのか。③ジャーナリズムは古くから「社会の番犬」、「権力監視」といった役割を期待されてきた。映像、活字、ネットメディアそれぞれに一つ以上の事例を取り上げて紹介し、考察・分析しなさい。以上の①—③は、それぞれ参考文献を3冊以上引用する形で自分の考察も含めて論じなさい。

### 【メ社4】 和田伸一郎

**課題タイトル: 「メディアと『忘れられる権利』について——検索エンジンからAIへ」**

**課題本文:**

2014年、欧州司法裁判所（CJEU）は、EU圏内に居住する個人がGoogle検索エンジンの検索結果から特定のウェブページの削除をリクエストすることができるという判決を下し、いわゆる「忘れられる権利」が認められた。この権利は、2018年に施行されたEU一般データ保護規則（GDPR）第17条として法制化されている。2014年以降、Googleだけで累計610万件以上のURL削除リクエストが提出されている。

これに対応するべく、Googleは、削除リクエストについての「透明性レポート」を公開している。このレポートは随時更新されており、どれだけのリクエストがあり、Google側が審査をして、どうい理由で除外したか、あるいは除外しなかったかについて、その内容の一部を確認することができる。

課題は、四つある。

### ■ ①

「忘れられる権利」がEU圏内で施行された経緯について簡単にまとめなさい。その際、2014年のCJEU判決（Google Spain事件）の概要と、2018年のGDPR第17条への法制化の流れを含めること。

### ■ ②

「透明性レポート」について。

<https://transparencyreport.google.com/eu-privacy/overview?hl=ja>

このサイトの中の「リクエストを探す」というセクションで、以下の三つのタブがある（「国」「期間」「決定」）。ここで「国」のタブは「すべての国」に設定し、期間は、選択可能な最新の年（例：2025年）にし、「決定」は、そのまま「決定」に設定した上で、表示されたリクエスト事例の内容と結果について、除外されたURLと、除外されなかったURLに分けて、どういう理由から、それぞれ除外されたのか、あるいは除外されなかったのか、述べなさい（事例は、合わせて10件以上）。

### ■ ③

Google検索から検索結果が削除されたURLの中には、例えば、BBC Onlineの記事リンクなども含まれている（ただし、Google検索から消えるだけで、記事のサイト、URL自体は削除されず、BBCのサーバーに残っている）。

これに対し、BBCは、2014年以降、除外された記事のURLを表示するウェブサイトを公開してきた（ただし、この公開はBBCの厳格な編集ポリシーに基づいて行われている）。

<https://www.bbc.co.uk/blogs/internet/entries/1d765aa8-600b-4f32-b110-d02fbf7fd379>

ここでは、記事に載せられている本人か、あるいは本人ではない誰かによるリクエストに基づいた、記事内に含まれている個人情報を保護するという「忘れられる権利」が、「報道の自由」・「知る権利」と抵触するということが起きている。この問題について、参考文献を2つ以上あげて、論述しなさい。

## ■ ④

近年、ChatGPTやGoogle Geminiなどの生成AIが、Google検索の代わりに使われるようになってきている。ここで重要なのは、「忘れられる権利」がこれらの生成AIにも波及し始めているという事実である。例えば、ChatGPTを開発するOpenAI社は、すでにGDPRに基づいて「ChatGPTの回答に自分の個人情報が含まれないようにしてほしい」という削除リクエストを公式に受け付けている。

しかし、Google検索の場合と、ChatGPTのような生成AIの場合では、「忘れられる権利」の実現の難しさがまったく異なる。Google検索であれば、検索結果のリストから特定のURLを取り除けばいい。しかし、ChatGPTのような生成AIの場合、個人情報はインターネット上の膨大なテキストデータからAIが「学習」した結果として、AIの内部に取り込まれている。この学習済みのデータからある特定の個人の情報だけを取り除くことは、技術的にきわめて困難であるとされている。

このことを踏まえた上で、以下の問いに答えなさい。

AIの時代において「忘れられる権利」はどのような新しい問題に直面しているか。Google検索に対する「忘れられる権利」と比較しながら、あなた自身の考えを述べなさい。

以上。

## <秋学期>

### 【メ社5】砂川浩慶

**課題タイトル：戦争とメディア**

**課題本文：**

①第二次世界大戦を報じた日本のメディアの特徴と問題点、②ベトナム戦争以降現在までの戦争報道の概況と問題点を参考文献を明示して述べてください。そのうえで、「戦争とメディア」について、メディアが果たすべき役割を中心に自分の考えを示し論じてください。なお、戦争に関するドキュメンタリー、映画各2本を見て、そのタイトル名・感想も記載してください。

### 【メ社6】木下浩一

## 課題タイトル：「ジャーナリズムの機能低下が社会に及ぼす影響」

### 課題本文：

課題はタイトルの通りである。具体的には、以下の4つを要件とする。

- 1) 特定の具体的事例を取り上げる。
- 2) 具体的な論拠を示す。
- 3) 論理的に論じる。（執筆者本人の思想は一切問わない＝記述する必要はない）
- 4) 先行研究を整理し、資料とあわせて参考文献を明示する。

以下、出題の背景や文脈について述べておく。本課題のキーワードは、以下の文中にある。

ジャーナリズムという語が死語といわれるようになって久しい。ジャーナリズム (journalism) を思想 (ism) とするならば、メディアは媒体あるいは形式である。記者をはじめとしたジャーナリストは、何らかの思想のもと、メディア（媒体）を用いて、記事やニュースなどのコンテンツ（内容）を伝える。受け手は、コンテンツだけでなく、形式や思想からも影響を受ける。ジャーナリズムは、狭義には思想であるが、広義には様々な実践を指す。

ジャーナリズムという実践は、民主主義の要件とされる。ジャーナリズムの実践がなければ、民主主義の多くの参加者（市民）は情報を持ちえないからである。情報がなければ、判断することはできない。憲法に保障される「知る権利」は、ジャーナリズムという実践によって下支えされる。

1990年代後半からインターネットが普及し、2000年代末期からスマートフォンあるいはSNSが急速に普及した。メディア状況の大きな変化は、ジャーナリズムにも大きな影響を与えた。新聞やテレビなどのオールドメディア（レガシーメディアとも）は退潮し、SNSなどのニューメディアが台頭した。新聞やテレビの記者、あるいは活字媒体を用いるジャーナリストの存在感は大きく低下し、代わって、SNSなどを駆使するインフルエンサーが活躍するようになった。アメリカのホワイトハウスでの記者会見では、いまや最初の質問はインフルエンサーがするようになった。

上記の変化は、我々が住まう社会、なかでも民主主義社会のあり方に影響を及ぼしている。影響を細分化すれば、以下の4つになろう。1) 送り手、2) 受け手、3) メディア、4) コンテンツである。すなわち、メディアがどのように変化し、それに伴って送り手やコンテンツがどのように変わり、それを受容する受け手がいかに変化しつつあるのか。特定の事例を取り上げた上で、これらについて論じてほしい。キーワードを追記すれば、以下となろう。（あくまで参考である。使用は評価に影響しない）プラットフォーム、正統性、真正性、速報性、情動、共感、フィルターバブル、エコーチェンバー等。

最後に、事例を例示する。

- ・米大統領選挙などにおけるポッドキャストの台頭
- ・日本の国政選挙におけるSNSの利用
- ・地震などの災害時における誤情報の拡散
- ・兵庫県知事選（2024）におけるオールドメディアとネットメディアにおける分断

## 【メ社7】 是永論

**課題タイトル:** 「日本の子ども・青少年におけるスポーツのあり方について」

**課題本文:**

いわゆるコロナ禍での外出制限以前から、日本では子どもの体力低下とスポーツ離れが指摘されてきた（田中・森田 [2021] など）。また成年におけるスポーツ観戦への態度には、青少年期の運動体験が影響していることが指摘されている（下窪 [2022] ）。

そこで本課題では、指定の調査データを分析したうえで（注1）、タイトルに関連したテーマと仮説を各自が設定し、その仮説について文献資料（注2）や分析データ（注3）をもとに検証・考察したもの（注4）をレポートにまとめることを課題とする。

10月12日（月・祝日授業日）までをめどに出題担当者となるべく面談をし、データの使い方や進行計画の確認を行った上で作成を進めること。また**中間提出の後は担当教員と必ず面談**をし、仮説を中心に内容の確認を受けること。

以上の面談は本人からの申し出の上で、原則オンラインで実施する（申し出がなければ実施は保証されないので注意）。

分析にあたっては、社会調査法3で使用したHADの利用を推奨する。

**※課題の作成にあたっては、注にある条件にしたがうこと。**

### 注1：TBS生活DATAライブラリの使用について

データをウェブ上で操作し、クロス集計などにより分析を実施する（学内での使用が原則となる）。ユーザーIDの配布準備が整い次第、メールで課題履修者に通知し、本人からの確認の連絡を受けた上で、さらにデータベースのリンクを通知するので、大学アドレスへのメールをよく確認しておくこと（本人からの確認の連絡がない場合は、IDが配布されないので注意）。

※データについての説明（データベース利用で使うものとは別のサイトになります）

<https://www.jds.ne.jp/datebase01j/>

**注2：下記の文献や、そこで引用されているものなどを適宜参照のこと。**

・是永論 2014 「スポーツ文化とコミュニケーション」、[辻大介ほか『コミュニケーション論をつかむ』](#)有斐閣、191-199 頁

・是永論 2016 「インターネット：検索からできごとのエスノグラフィーへ」、[藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』（第2版）](#)ミネルヴァ書房、164-192頁

・[田中充・森田景史 2021『スポーツをしない子どもたち』](#)扶桑社新書

・[下窪 拓也 2022 「スポーツ観戦者の社会的属性の検証—社会経済的地位と性別の観点から—」、『スポーツ社会学研究』30\(2\),pp.101-113](#)

**注3：HADによる分析用に下記のエクセルデータを履修者で共有するので、各自で活用のこと（各データの概要は下記のリンクを参照）。**

①「子ども・青少年のスポーツ・ライフ・データ」（笹川スポーツ財団）2010・2019・2023年のデータ（12～21歳）

[https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports\\_life/datalist/index.html](https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/datalist/index.html)

②「スポーツ・ライフ・データ」（笹川スポーツ財団）2018・2020・2022年のデータ（18歳以上）

[https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports\\_life/index.html](https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/index.html)

③「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）2018～2023年データ

[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/toukei/chousa04/sports/1402342.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1402342.htm)

なお、年代や性別などの属性による差については、ただ差があることを結果として示すのではなく、具体的な差について、その差が生じる要因に関連した分析や考察を行うこと。運動や競技の内容については、調査データとして扱われているもののうち、なるべく一つに絞って考察することがのぞましい。

以上

## 【メ社8】川畑泰子

課題タイトル: 「オンラインソーシャルネットワーク上で観測されるあらゆる社会分断に関する言論空間の問題点に関する考察(ケーススタディなど)」

### 課題本文:

COVID19禍においてオンライン上でのリスク・コミュニケーションが増加するにつれさらにあらゆるリスク管理が必要な状況となっている。また、COVID-19禍でオンラインコミュニケーションが増加したことで、表出した社会的な分断(人種、身体的特徴、信条など起因とする)に関する議論に関してのオンラインメディアを起点とする意見の先鋭化、及びに併発する意見の社会的分断に関する議論も必要となった。

上述の国際紛争、より加速しつつあるSNS上における誹謗中傷に関する議論、民族・人種差別を喚起させる言論空間で併発される社会的分断に関する議論などの諸社会問題、事例をテーマとして論述してください。

### テーマ事例

①コロナ禍に際して表出した社会的分断に接続する言論空間に関してオンラインメディア、SNS上での問題点に関して

②国際紛争に付随する民族、人種差別に関する言論

③フェイクニュース、誹謗中傷、著作権濫用、フェアユース規程とこれからの日本経済圏とオンラインメディアの課題など

④身体的特徴、オンライン空間上での意見を述べる体勢に関する議論(例えば、顔出しをしない、または過剰に露出することに関して発生する社会的分断を想起する意見の分裂など)

⑤デジタル・ディバイドに関する諸問題(デジタル環境上でのソーシャルスキル、知識を元にする個人差などを起因とする意見の分裂、いじめ問題など)また、以下の観点、議論、記事からの考察を重視されたい。

レポート作成の要綱(2025年度・卒業研究2)

①<https://docs.google.com/document/d/11Ea-cdo7UTJlcNjDZsxfZVXZXD5gN9vQu6nZVyFy7pU/edit?usp=sharing>

執筆につき以下のルールを遵守すること。

そして、積極的に面談予約などの連絡を取り執筆を進めること。

(1) 最低2つのグラフ図を用いて論述すること

(2) 上記(1)のグラフはデータを示すグラフ図であること。(ニュースサイトなどのHPやSNSなどからグラフ図を引用する場合、URLなどの出典を明らかにすること)を用いて論述すること。

(3) フォントサイズは10.5-11ptが望ましい。

(4) フォントの種類は指定しない。

(5) レポートタイトルを必ず記述すること(例:海外フェイクニュースに関する分析など) (6) 自分自身の観点での考察を入れること。

①で紹介している文献、最新のオンライン上での多様な情勢に関してデータなどを参考にしてください。(データ、グラフなど引用、参照をしてください。)

レポート作成にあたり、文献の引用、出典などに関する参考(テンプレート)を読んで、作成をすること

参考文献(推奨文献)

[1]北口末広,2020,"<論文>ビッグデータとフェイクニュースがもたらす社会への影響—個人情報保護と人権確立の視点で—."近畿大学人権問題研究所紀要,(34):1-34.

[2]令和2年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について

[3]北口末広,2020,"<論文>ビッグデータとフェイクニュースがもたらす社会への影響—個人情報保護と人権確立の視点で—."近畿大学人権問題研究所紀要,(34):pp.1-34.

[4]「個人情報の保護に関する法律等の一部を改正する法律」の公布について,閲覧日2020年12月

[5]橋元良明,片桐恵子,木村忠正,是永論,辻大介,森康俊&大野志郎,2020,"中高年齢層の情報行動."東京大学大学院情報学環情報学研究.調査研究編=Researchsurveyreportsininformationstudies.Interfacultyinitiativeininformationstudies,theUniversityofTokyo,36,:pp.264-319.

[6]・浅田太郎,竹田麻友子,吉富康成,田伏正佳,,"「いじめ語」検出による学校裏サイト監視支援システム",情報科学技術フォーラム講演論文集9(3),pp.679-680(2010).

[7]浅田太郎,伏見朋恵,吉富康成,田伏正佳,,"「いじめ語指数」と個人名検出を併用した学校裏サイト監視支援システム",情報科学技術フォーラム公園論文集10巻3号,pp.749-750(2011).

[8]レポートがChatGPTで作られたことを検出するシステムを開発…AIとのいたちごっこ

<https://www.businessinsider.jp/post-264206>

[9]ソーシャルメディア・スタディーズ / 松井広志, 岡本健編著

[10]ケアメディア論：孤立化した時代を「つなぐ」志向 / 引地達也著

[11]メディアと感情の政治学 / カリン・ウォール=ヨルゲンセン著；三谷文栄, 山腰修三訳

[12]「許せない」がやめられない：SNSで蔓延する「#怒りの快楽」依存症 / 坂爪真吾著

[13]「いいね!」戦争：兵器化するソーシャルメディア / P.W.シンガー, エマーソン・T.ブルッキング著；小林由香利訳

[14]ソーシャルメディアと「世論」形成：間メディアが世界を揺るがす / 遠藤薫編著；西田亮介 [ほか]著

[15]ネット炎上の研究：誰があおり、どう対処するのか / 田中辰雄, 山口真一著

[16]ICT社会の人間関係と心理臨床：スマホ依存、ネット依存対策に関する臨床心理士らの提言 / 小川憲治, 織田孝裕編著

[17]スマホチルドレン対応マニュアル：「依存」「炎上」これで防ぐ! / 竹内和雄著